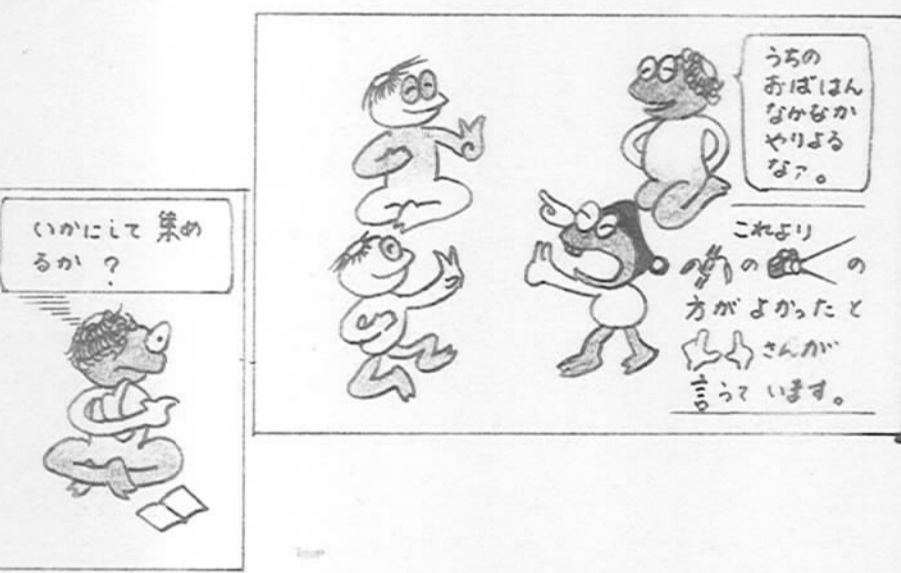


JRPみえばん 百万石

27
1979.
12.
5

伊勢市古市町
東 洋 介
百万石編集部

それは こんど入会した谷川さんの持ってきた1枚の作品に端を登した。夕やみに浮かぶ 白い蓮の花の写真だった。谷川さんは 自己紹介のつもりで持ってきたのだったが意外や意外それは、例会久しぶりの大論争に発展していった。しかし残念なことに、われらが百万石特派員は 記憶力に軽い障害があり、その報道記事に若干の疑念がもたれたため編集部にて 涙をのんで記事の差止めを致しました。代わりに 報道さしえを載せますので よろしくご想像をふくらませて下さい。



県展のこと

既に ご存知の通り 樋口幸雄さんが上位の5位入賞。若ちゃん 薫ちゃんが奨励賞に入った。舟(ゆか)さん、柳生さん、スミオさん、隆さんの4人が入選。7人が8人落選した。この落選組 われらのベテランがずらりと名をならべている。宮間式表現を借りると 宗旨の違いが出たのである。僕もそう思う。それと もうひとつ言わせて貰うと 皆さん手抜き工事のところがあった。仕上げの詰めを怠った人が たしかにあった。撮影をさぼっていて、あわてて撮った人(エ、へ、へ)、新婚旅行で外国でちよいと写してきたのを出した人(エ、へ、へ) いろいろありました。でも若ちゃんのように 堂々と最新作、もちろん今年度の本命をぶつけて入賞した人もある。宗旨の違いなど問題なくいい写真はいい写真として通っていった。しかし 宗旨の違いは やはり存在する — とも思えなくはない。といったところで、今後いろいろ 考えて 意見の交換をしようではありませんか。(東)

視点展には詰めを十分に

てんわでもしもし
清水さん から

シ「もしもしヨーサンか。ネッカラやったな」
(ウソつけ、おどい会ったやないか)

ヨ「ありや、ジズさん お久しぶりで。アレちょっと鼻声かな？」

シ「うん、ええしの子は大人になってもひ弱でナ。ところで「ご苦労さん」

ヨ「なにが？ ああケンテン。それそれ、なんや勝ちゃん、あの焼きは」

シ「……………」 ヨ「あんた ラクセンやったわ」

シ「なに、落選？ そらイカン。それで他の人」(自分落したのに、人の心配)

ヨ「7人は入った。7人か8人落ちた。ベテランがぶつけ 落ちた」

シ「ナニ、そんなに落ちた？ そんな無底な。そらイカン」(人の落ちたの怒り)

ヨ「かんにん、かんにん。(ナンテ オレアヤマツリ/カナ) でも 240名も応募あつたんや。入選率は4割の難関やったわ」

シ「そらイカン……わし、入賞はともかく。入選の自信あつたのになア」

ヨ「でもあんた えらい手抜きやったわ。たいがい全倍やのに、あんたは全然。おまけに焼きの手抜きは たいがいのもんや。あれはキヨシズ焼きのうて、ダラ焼きの清水や、よし、こんどからダラ焼シズとロツンだろ」 「それからアツク、ケンテンをなめとったんと違うか？ 河崎シズに、ええの ようけあるのに あの90爺さんの写真出してさ」

シ「ヨーサン、ヨーサン。お話中にゴメンやけど、ちょっと言葉はさませで貰うてよろしかナ」(やけに落着いて ナニ言いたいんや)

シ「あの90爺さん 賞めたの誰？」

ヨ「そんなこと知ラン」

シ「こりや、1枚でキマツると言ったの誰？ これはケンテンに出そうと言ってくれたのダレ？」

ヨ「ダレや、それ」

シ「あれ、まだとぼけとる。アキレ、ア、…… あんたや、あんた、やんか」

ヨ「あれ ほうやった かいなア」 ゴメン エルセ、カンニン、ジズサン。

12月 例会に

仁さんがニコニコと遊びに来て日「(ばんど(坂東)の 稲屋の 甘酒を、12月の例会に出しましょか。作品持ってきた人だけ、温かいホッコホコの甘酒のんで 貰いませよ」
「ばんどのこうじゆ」は ヒロシさんの親と、仁さんにとっては叔父さん。

「東さん、いろいろ会のため やってくれるのは ありがたいですが、もっとバンバン 作品作って下さい」と。
一生けんめいと言っていた。